

## 基本計画書

基本計画書										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	研究科の専攻（専門職大学院）の設置									
フリガナ設置者	ガッコウホウジン コクサイリョウフクシダイガク 学校法人 国際医療福祉大学									
フリガナ大学の名称	コクサイリョウフクシダイガクダイガクイン 国際医療福祉大学大学院 (International University of Health and Welfare Graduate School)									
大学本部の位置	栃木県大田原市北金丸2600-1									
大学の目的	国際医療福祉大学は、教育基本法及び学校教育法に基づき、保健医療福祉に関する理論と応用の教授研究を行い、幅広く深い教養及び総合的判断を培い、豊かな人間性を涵養し保健医療福祉に関する指導者とその専門従事者を育成するとともに、学術文化の向上と国際社会の保健医療福祉に貢献する有能な人材を育成することを目的とする。									
新設学部等の目的	国際保健・感染症学、医療福祉政策・管理学、疫学・社会予防医学の公衆衛生学分野において、国内外の諸問題を実践的に解決する能力を備え、国際性を身につけた高度専門職業人を育成することを目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	医学研究科 [Graduate School of Medicine] 公衆衛生学専攻 [School of Public Health] 計	2	20	-	40	公衆衛生学修士 (専門職) [Master of Public Health]	令和6年4月 第1年次	千葉県成田市 公津の杜4-2 (成田キャンパス) 東京都港区赤坂4-1-26 (東京赤坂キャンパス)		
								14条特例の実施 【基礎となる学部】医学部医学科		
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	学部の設置届出 成田薬学部薬学科 (120) ※令和5年4月27日 届出 収容定員関係学部則変更認可申請 成田薬学部設置に伴う収容定員増 (720人) ※令和5年3月23日認可申請 研究科の学生募集停止 医学研究科公衆衛生学専攻 (廃止) (△20) ※令和6年4月 学生募集停止							収容定員関係学部則変更認可申請 令和5年8月30日認可 (これにより成田薬学部設置届出の受理が成立)		
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
		講義	演習	実験・実習	計					
	医学研究科公衆衛生学専攻	31科目	3科目	2科目	36科目	30単位				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等		
			教授	准教授	講師	助教	計		助手	
	新設	医学研究科公衆衛生学専攻 修士課程 (専門職学位課程)		14人 (14)	1人 (1)	1人 (1)	1人 (1)	17人 (17)	0人 (0)	34人 (34)
		計		14人 (14)	1人 (1)	1人 (1)	1人 (1)	17人 (17)	0人 (0)	34人 (34)
		既設	医療福祉学研究科保健医療学専攻 修士課程		107人 (107)	46人 (46)	17人 (17)	4人 (4)	174人 (174)	0人 (0)
	医療福祉学研究科保健医療学専攻 博士課程		116人 (116)	54人 (54)	21人 (21)	6人 (6)	197人 (197)	0人 (0)	6人 (6)	
	医療福祉学研究科医療福祉経営専攻 修士課程		22人 (22)	6人 (6)	1人 (1)	3人 (3)	32人 (32)	0人 (0)	1人 (1)	
	医療福祉学研究科臨床心理学専攻 修士課程		2人 (2)	4人 (4)	4人 (4)	0人 (0)	10人 (10)	0人 (0)	0人 (0)	
	薬学研究科医療・生命薬学専攻 博士課程		27人 (27)	15人 (15)	0人 (0)	0人 (0)	42人 (42)	0人 (0)	0人 (0)	
	薬学研究科生命薬学専攻 修士課程		27人 (27)	15人 (15)	0人 (0)	0人 (0)	42人 (42)	0人 (0)	0人 (0)	
	共通	医学研究科医学専攻 博士課程		96人 (96)	1人 (1)	0人 (0)	0人 (0)	97人 (97)	0人 (0)	6人 (6)
		計		4人 (4)	3人 (3)	0人 (0)	0人 (0)	7人 (7)	0人 (0)	0人 (0)
		計		401人 (401)	144人 (144)	43人 (43)	13人 (13)	601人 (601)	0人 (0)	18人 (18)
合計		415人 (415)	145人 (145)	44人 (44)	14人 (14)	618人 (618)	0人 (0)	52人 (52)		

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計	大学全体					
	事 務 職 員		960人 (955)	290人 (280)	1250人 (1235)						
	技 術 職 員		12人 (10)	0人 (0)	12人 (10)						
	図 書 館 専 門 職 員		16人 (15)	25人 (23)	41人 (38)						
	そ の 他 の 職 員		3750人 (3370)	280人 (270)	4030人 (3640)						
	計		4738人 (4350)	595人 (573)	5333人 (4923)						
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体					
	校 舎 敷 地	258,383㎡	— ㎡	— ㎡	258,383㎡						
	運 動 場 用 地	100,751㎡	— ㎡	— ㎡	100,751㎡						
	小 計	359,134㎡	— ㎡	— ㎡	359,134㎡						
	そ の 他	113,975㎡	— ㎡	— ㎡	113,975㎡						
	合 計	473,109㎡	— ㎡	— ㎡	473,109㎡						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体					
		213,779㎡ (213,779㎡)	— ㎡ ( — ㎡)	— ㎡ ( — ㎡)	213,779㎡ (213,779㎡)						
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体					
	201室	180室	327室	22室 (補助職員8人)	9室 (補助職員0人)						
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称 医学研究科公衆衛生学専攻		室 数	389 室	医学部・大学院					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	医学部・医学研究科共通		
	医学研究科		20,832 [6,965] (20,831 [6,965])	269 [23] (269 [23])	12,030 [10,395] (12,027 [10,394])	280 (280)	30,867 (30,867)	164 (164)			
	計		20,832 [6,935] (20,831 [6,965])	269 [23] (269 [23])	12,030 [10,395] (12,027 [10,394])	280 (280)	30,867 (30,867)	164 (164)			
図 書 館		面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体				
		8,081㎡	1,691席		354,777冊						
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要								
		7,465㎡	弓道場		テニスコート						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	申請研究科(医学研究科公衆衛生学専攻)	
		教員1人当り研究費等		400千円	400千円						
		共同研究費等		3,000千円	3,000千円						
		図書購入費	250千円	50千円	50千円						
	設備購入費	0千円	0千円	0千円							
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
		900千円	700千円								
学生納付金以外の維持方法の概要			手数料収入、資産運用収入 等								

大学等の名称	国際医療福祉大学									
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
既設大学等の状況	保健医療学部 看護学科	4	115	-	460	学士 (看護学)	1.03	平成7年度	栃木県 大田原市 北金丸2600-1	
	理学療法学科	4	100	-	400	学士 (理学療法学)	1.03	平成7年度		
	作業療法学科	4	80	-	320	学士 (作業療法学)	1.00	平成7年度		
	言語聴覚学科	4	80	-	320	学士 (言語聴覚学)	0.98	平成7年度		
	視機能療法学科	4	50	-	200	学士 (視機能療法学)	1.05	平成14年度		
	放射線・情報科学科	4	110	-	440	学士 (放射線・情報科学)	1.03	平成7年度		
	医療福祉学部 医療福祉・ マネジメント学科	4	140	3年次 5	570	学士 (医療福祉学) (医療マネジメント学)	1.02	平成21年度		
	薬学部 薬学科	6	180	-	1080	学士 (薬学)	0.96	平成18年度	千葉県成田市 公津の杜4-2	
	医学部 医学科	6	140	-	840	学士 (医学)	0.97			
	成田看護学部 看護学科	4	100	-	400	学士 (看護学)	1.07	平成28年度		
	成田保健医療学部 理学療法学科	4	80	-	320	学士 (理学療法学)	1.05	平成28年度		
	作業療法学科	4	40	-	160	学士 (作業療法学)	1.08	平成28年度		
	言語聴覚学科	4	40	-	160	学士 (言語療法学)	1.03	平成28年度		
	医学検査学科	4	80	-	320	学士 (医学検査学)	1.08	平成28年度		
	放射線・情報科学科	4	50	-	200	学士 (放射線・情報科学)	1.04	令和2年度		
	赤坂心理・医療福祉 マネジメント学部 心理学科	4	60	-	240	学士 (心理学)	1.04	平成30年度		東京都港区 赤坂4-1-26
	医療マネジメント学科	4	60	-	240	学士 (医療マネジメント学)	0.97	平成30年度		
	小田原保健医療学部 看護学科	4	80	-	320	学士 (看護学)	1.07	平成18年度	神奈川県 小田原市 城山1-2-25	
	理学療法学科	4	80	-	320	学士 (理学療法学)	1.07	平成18年度		
	作業療法学科	4	40	-	160	学士 (作業療法学)	1.01	平成18年度		

既設大学等の状況(つづき)	福岡保健医療学部 看護学科	4	60	-	60	学士 (看護学)	-	令和5年度	福岡県大川市 榎津137-1	※令和5年度より 入学定員減(△10人) ※令和5年度より 入学定員減(△10人) ※令和5年度より 学生募集停止
	理学療法学科	4	50	-	230	学士 (理学療法学)	1.10	平成17年度		
	作業療法学科	4	30	-	150	学士 (作業療法学)	0.96	平成17年度		
	言語聴覚学科	4	-	-	-	学士 (言語療法学)	-	平成19年度		
	医学検査学科	4	80	-	320	学士 (医学検査学)	1.07	平成25年度		
	福岡薬学部 薬学科	6	120	-	480	学士 (薬学)	1.03	令和2年度		
	医療福祉学研究科 保健医療学専攻	2	200	-	400	修士 (保健医療学) (看護学) (助産学) (言語聴覚学) (生殖補助医療学) (医療福祉教育・管理学) (臨床検査学) (災害医療学) (遺伝カウンセリング学)	1.02	平成11年度		※令和4年度より 入学定員増(40人)
	保健医療学専攻	3	80	-	230	博士 (保健医療学) (看護学) (助産学) (言語聴覚学) (生殖補助医療学) (医療福祉教育・管理学) (臨床検査学) (災害医療学) (医療遺伝学) (医療福祉経営学) (医療福祉学) (診療情報管理学) (医療福祉国際協力学) (介護福祉・ケアマネジメント学) (臨床心理学) (医療福祉ジャーナリズム学)	1.00	平成13年度	栃木県 大田原市 北金丸2600-1	※令和4年度より 入学定員増(10人)

既設大学等の状況 (つづき)	医療福祉経営専攻	2	50		100	修士 (医療福祉学) (診療情報管理学) (医療ビジネス経営学) (医療福祉経営学) (医療福祉国際協力学) (介護福祉・ケアマネジメント学) (自立支援介護学) (自立支援実践ケアマネジメント学) (医療福祉ジャーナリズム学) (医療通訳・医療マネジメント学)	1.06	平成13年度		
	臨床心理学専攻	2	35	-	70	修士 (臨床心理学)	0.93	平成19年度	東京都港区 赤坂4-1-26	※令和4年度より 入学定員増 (10人)
	薬科学研究科 薬科学研究専攻	2	5	-	10	修士 (薬科学)	0.10	平成22年度	栃木県 大田原市 北金丸2600-1	
	薬学研究科 医療・生命薬学専攻	4	5	-	20	博士 (薬学)	0.65	平成24年度		
	医学研究科 公衆衛生学専攻	2	20	-	40	修士 (公衆衛生学) (医科学)	1.30	平成30年度	千葉県成田市 公津の杜4-2	※令和4年度より 入学定員増 (10人)
	医学専攻	4	20	-	80	博士 (医学)	1.02	平成30年度		

<p>附属施設の概要</p>	<p>名称：国際医療福祉大学病院          目的：診療及び臨床実習          所在地：栃木県那須塩原市井口537-3          設置年月：平成19年2月          規模等：建物39,437㎡ 408床</p>	
	<p>名称：国際医療福祉大学塩谷病院          目的：診療及び臨床実習          所在地：栃木県矢板市富田77          設置年月：平成21年4月          規模等：建物17,022㎡ 240床</p>	
	<p>名称：国際医療福祉大学成田病院          目的：診療及び臨床実習          所在地：千葉県成田市畑ヶ田地増前852他          設置年月：令和2年3月          規模等：建物91,000㎡ 642床</p>	
	<p>名称：国際医療福祉大学市川病院          目的：診療及び臨床実習          所在地：千葉県市川市国府台 6-1-14          設置年月：平成29年9月          規模等：建物16,811㎡ 260床</p>	
	<p>名称：国際医療福祉大学三田病院          目的：診療及び臨床実習          所在地：東京都港区三田1-4-3          設置年月：平成17年3月          規模等：建物35,504㎡ 291床</p>	
	<p>名称：国際医療福祉大学熱海病院          目的：診療及び臨床実習          所在地：静岡県熱海市東海岸町13-1          設置年月：平成14年7月          規模等：建物23,257㎡ 269床</p>	
	<p>名称：国際医療福祉大学クリニック          目的：診療及び臨床実習          所在地：栃木県大田原市北金丸2600-6          設置年月：平成9年5月          規模等：建物3,574㎡</p>	
	<p>名称：国際医療福祉大学 介護老人保健施設マロニエ苑          目的：介護老人保健施設及び臨床実習          所在地：栃木県那須塩原市井口533-4          設置年月：平成19年2月          規模等：建物7,052㎡ 定員200名（ショートステイ含む）</p>	
	<p>名称：国際医療福祉大学 にしなすの総合在宅ケアセンター          目的：在宅介護、通所リハ及び臨床実習          所在地：栃木県那須塩原市井口537-3          設置年月：平成19年2月          規模等：建物850㎡</p>	
	<p>名称：国際医療福祉大学 しおや総合在宅ケアセンター          目的：在宅介護、通所リハ及び臨床実習          所在地：栃木県矢板市富田77          設置年月：平成26年4月          規模等：建物999㎡</p>	
	<p>名称：薬草園          目的：演習実習          所在地：栃木県大田原市北金丸2600-1          設置年月：平成17年4月          規模等：256㎡</p>	
	<p>名称：福岡薬草園          目的：演習実習          所在地：福岡県大川市榎津137-1          設置年月：令和2年4月          規模等：606㎡</p>	

学校法人国際医療福祉大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
国際医療福祉大学				国際医療福祉大学				
保健医療学部				保健医療学部				
看護学科	115	-	460	看護学科	115	-	460	
理学療法学科	100	-	400	理学療法学科	100	-	400	
作業療法学科	80	-	320	作業療法学科	80	-	320	
言語聴覚学科	80	-	320	言語聴覚学科	80	-	320	
視機能療法学科	50	-	200	視機能療法学科	50	-	200	
放射線・情報科学科	110	-	440	放射線・情報科学科	110	-	440	
医療福祉学部				医療福祉学部				
医療福祉・マネジメント学科	140	3年次 5	570	医療福祉・マネジメント学科	140	3年次 5	570	
薬学部				薬学部				
薬学科	180	-	1080	薬学科	180	-	1080	
医学部				医学部				
医学科	140	-	840	医学科	140	-	840	
成田看護学部				成田看護学部				
看護学科	100	-	400	看護学科	100	-	400	
成田保健医療学部				成田保健医療学部				
理学療法学科	80	-	320	理学療法学科	80	-	320	
作業療法学科	40	-	160	作業療法学科	40	-	160	
言語聴覚学科	40	-	160	言語聴覚学科	40	-	160	
医学検査学科	80	-	320	医学検査学科	80	-	320	
放射線・情報科学科	50	-	200	放射線・情報科学科	50	-	200	
成田薬学部				成田薬学部				学部の設置(届出)
				薬学科	120	-	720	
赤坂心理・医療福祉マネジメント学部				赤坂心理・医療福祉マネジメント学部				
心理学科	60	-	240	心理学科	60	-	240	
医療マネジメント学科	60	-	240	医療マネジメント学科	60	-	240	
小田原保健医療学部				小田原保健医療学部				
看護学科	80	-	320	看護学科	80	-	320	
理学療法学科	80	-	320	理学療法学科	80	-	320	
作業療法学科	40	-	160	作業療法学科	40	-	160	
福岡保健医療学部				福岡保健医療学部				
看護学科	60	-	240	看護学科	60	-	240	
理学療法学科	50	-	200	理学療法学科	50	-	200	
作業療法学科	30	-	120	作業療法学科	30	-	120	
医学検査学科	80	-	320	医学検査学科	80	-	320	
福岡薬学部				福岡薬学部				
薬学科	120	-	720	薬学科	120	-	720	
計	2,045	3年次 5	9,070	計	2,165	3年次 5	9,790	
国際医療福祉大学大学院				国際医療福祉大学大学院				
医学研究科				医学研究科				
公衆衛生学専攻(M)	20	-	40	公衆衛生学専攻(P)	0	-	0	令和6年4月学生募集停止
医学専攻(D)	20	-	80	医学専攻(D)	20	-	80	専攻の設置(認可申請)
医療福祉学研究科				医療福祉学研究科				
保健医療学専攻(M)	200	-	400	保健医療学専攻(M)	200	-	400	
医療福祉経営専攻(M)	50	-	100	医療福祉経営専攻(M)	50	-	100	
臨床心理学専攻(M)	35	-	70	臨床心理学専攻(M)	35	-	70	
保健医療学専攻(D)	80	-	230	保健医療学専攻(D)	80	-	230	
薬科学研究科				薬科学研究科				
生命薬科学専攻(M)	5	-	10	生命薬科学専攻(M)	5	-	10	
薬学研究科				薬学研究科				
医療・生命薬学専攻(D)	5	-	20	医療・生命薬学専攻(D)	5	-	20	
計	415		950	計	415		950	
国際医療福祉大学塩谷看護専門学校				国際医療福祉大学塩谷看護専門学校				
医療専門課程				医療専門課程				
看護学科	40	-	120	看護学科	40	-	120	
計	40		120	計	40		120	

教育課程等の概要

（医学研究科公衆衛生学専攻）

科目区分	授業科目の名称	配当年次		単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	研究倫理特論	1	前	2			○								兼 2	オムニバス・メディア
	生物統計学概論	1	前	2			○			2						オムニバス・メディア
	疫学概論	1	前	2			○			1					兼 2	オムニバス・メディア
	環境・産業保健学概論	1	前	2			○			2					兼 7	オムニバス・共同（一部）・メディア
	医療福祉政策・管理学概論	1	前	2			○			1			1			オムニバス・共同（一部）・メディア
	社会行動科学概論	1	前	2			○								兼 2	オムニバス・メディア
	公衆衛生政策論	1	後	2			○			6	1	1			兼 1	共同メディア
	インターンシップⅠ（基礎）	1 2	前後		2			○		3						共同
	インターンシップⅡ（専門）	1 2	前後		4			○		3						共同
	国際保健学各論E	2	前		2		○			1		1			兼 3	オムニバス・共同（一部）・メディア
	臨床疫学概論	2	前		2		○			3						オムニバス・メディア
	医療情報システム概論	1 2	前		2		○								兼 1	メディア
	国際感染症学	2	前		2		○			3						オムニバス・メディア
	医療経済学概論	1 2	後		2		○			1						メディア
	予防医学各論	2	前		2		○			3					兼 2	オムニバス・メディア
	質的研究法概論	1 2	後		2		○								兼 1	メディア
	臨床心理学概論	1 2	後		2		○								兼 10	オムニバス・メディア
	災害医療論	1 2	後		2		○								兼 2	共同メディア
小計（ 18 科目）		—		14	24	0	—			14	1	1	1	0	兼 30	—
療非系医	医学概論	1	前		2		○								兼 1	メディア
小計（ 1 科目）		—		0	2	0	—			0	0	0	0	0	兼 1	—
留学生用	研究倫理特論E	1	通		2		○								兼 2	オムニバス・メディア
	生物統計学概論E	1	通		2		○			1					兼 1	オムニバス・メディア
	疫学概論E	1	通		2		○			1					兼 2	オムニバス・メディア
	環境・産業保健学概論E	1	通		2		○			2					兼 5	オムニバス・共同（一部）・メディア
	医療福祉政策・管理学概論E	1	通		2		○			1			1			オムニバス・共同（一部）・メディア
	社会行動科学概論E	1	通		2		○								兼 2	オムニバス・メディア
	公衆衛生政策論E	1	後		2		○			6	1	1			兼 1	共同メディア
	医学概論E	1	通		2		○								兼 1	メディア
小計（ 8 科目）		—		0	16	0	—			9	1	1	1	0	兼 13	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次		単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目	国際保健学分野・感染症学	国際保健学概論E	1	後		2		○			1		1			兼 3	オムニバス・共同（一部）・メディア	
		感染症学	1	後		2		○			3							オムニバス・メディア
		国際保健・感染症学課題研究指導	1 2	通		8			○		4	1				兼 1	共同	
	小計（3科目）		-		0	12	0	-			4	1	1	0	0	兼 4	-	
	医療福祉政策・管理学分野	医療福祉政策・管理学各論	1	後		2		○			1			1		兼 2	オムニバス・共同（一部）・メディア	
		医療福祉データサイエンス	1	後		2		○			1			1		兼 1	オムニバス・共同（一部）・メディア	
		医療福祉政策・管理学課題研究指導	1 2	通		8			○		2						共同	
	小計（3科目）		-		0	12	0	-			2	0	0	1	0	兼 3	-	
	疫学・社会予防医学分野	疫学・生物統計学各論	1	後		2		○			3					兼 1	オムニバス・メディア	
		予防医学概論	1	後		2		○			5					兼 1	オムニバス・メディア	
		疫学・社会予防医学課題研究指導	1 2	通		8			○		5					兼 1	共同	
	小計（3科目）		-		0	12	0	-			7	0	0	0	0	兼 3	-	
合計（36科目）		-		14	78	0	-			14	1	1	1	0	兼 34	-		

学位又は称号	公衆衛生学修士（専門職）	学位又は学科の分野	保健衛生学関係（看護学関係を除く）																								
卒業要件及び履修方法		授業期間等																									
卒業要件 30単位以上 ①医療系学部出身：必修22単位（うち分野必修8単位）、選択8単位（うち分野選択必修2単位）以上 ②非医療系学部出身：必修24単位（うち分野必修8単位）、選択6単位（うち分野選択必修2単位）以上		1学年の学期区分	2期																								
		1学期の授業期間	前後期：15週																								
		1時限の授業時間	90分																								
留学生は、英語科目又は英語科目と同一内容の日本語科目のいずれかを選択し履修するものとする。 日本語科目とそれに対応する英語科目の一覧を下表のごとく、履修の手引きに記載し、教員・院生に周知する。 表：日本語科目とそれに対応する英語科目（E科目）一覧 （院生はどちらか一方を履修しなければならないが、両者を履修することはできない。）																											
<table border="1"> <tr> <td>ア 研究倫理特論</td> <td>⇔</td> <td>研究倫理特論E</td> </tr> <tr> <td>イ 生物統計学概論</td> <td>⇔</td> <td>生物統計学概論E</td> </tr> <tr> <td>ウ 疫学概論</td> <td>⇔</td> <td>疫学概論E</td> </tr> <tr> <td>エ 環境・産業保健学概論</td> <td>⇔</td> <td>環境・産業保健学概論E</td> </tr> <tr> <td>オ 医療福祉政策・管理学概論</td> <td>⇔</td> <td>医療福祉政策・管理学概論E</td> </tr> <tr> <td>カ 社会行動科学概論</td> <td>⇔</td> <td>社会行動科学概論E</td> </tr> <tr> <td>キ 公衆衛生政策論</td> <td>⇔</td> <td>公衆衛生政策論E</td> </tr> <tr> <td>ク 医学概論</td> <td>⇔</td> <td>医学概論E（クは非医療系のみ必修）</td> </tr> </table>				ア 研究倫理特論	⇔	研究倫理特論E	イ 生物統計学概論	⇔	生物統計学概論E	ウ 疫学概論	⇔	疫学概論E	エ 環境・産業保健学概論	⇔	環境・産業保健学概論E	オ 医療福祉政策・管理学概論	⇔	医療福祉政策・管理学概論E	カ 社会行動科学概論	⇔	社会行動科学概論E	キ 公衆衛生政策論	⇔	公衆衛生政策論E	ク 医学概論	⇔	医学概論E（クは非医療系のみ必修）
ア 研究倫理特論	⇔	研究倫理特論E																									
イ 生物統計学概論	⇔	生物統計学概論E																									
ウ 疫学概論	⇔	疫学概論E																									
エ 環境・産業保健学概論	⇔	環境・産業保健学概論E																									
オ 医療福祉政策・管理学概論	⇔	医療福祉政策・管理学概論E																									
カ 社会行動科学概論	⇔	社会行動科学概論E																									
キ 公衆衛生政策論	⇔	公衆衛生政策論E																									
ク 医学概論	⇔	医学概論E（クは非医療系のみ必修）																									

教育課程等の概要

(医学研究科公衆衛生学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次		単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通	研究倫理特論	1	前	2			○								兼 2	オムニバス・メディア	
	生物統計学概論	1	前	2			○			2						オムニバス・メディア	
	疫学概論	1	前	2			○			1					兼 2	オムニバス・メディア	
	環境・産業保健学概論	1	前	2			○			2					兼 7	オムニバス・共同(一部)メディア	
	医療福祉政策・管理学概論	1	前	2			○			1			1			オムニバス・共同(一部)メディア	
	社会行動科学概論	1	前	2			○								兼 2	オムニバス	
	公衆衛生政策論	1	後	2			○			6	1	1			兼 1	共同メディア	
	インターンシップ I (基礎)	1 2	前 後		2				○		3						共同
	インターンシップ II (専門)	1 2	前 後		4				○		3						共同
	国際保健学各論E		2 前		2			○		1		1			兼 3	オムニバス・共同(一部)・メディア	
	臨床疫学概論		2 前		2			○		3							オムニバス・メディア
	医療情報システム概論	1 2	前		2			○							兼 1	メディア	
	国際感染症学		2 前		2			○		3							オムニバス
	医療経済学概論	1 2	後		2			○		1							
	共通科目	予防医学各論		2 前		2			○		3					兼 2	オムニバス・メディア
質的研究法概論		1 2	後		2			○							兼 1	メディア	
臨床心理学概論		1 2	後		2			○							兼 10	オムニバス・メディア	
災害医療論		1 2	後		2			○							兼 2	共同メディア	
小計 ( 18 科目)		—		14	24	0	—			14	1	1	1	0	兼 30	—	
療非系医	医学概論	1	前		2			○							兼 1		
小計 ( 1 科目)		—		0	2	0	—			0	0	0	0	0	兼 1	—	
留学生用	研究倫理特論E	1	通		2			○							兼 2	オムニバス・メディア	
	生物統計学概論E	1	通		2			○		1					兼 1	オムニバス・	
	疫学概論E	1	通		2			○		1					兼 2	オムニバス・メディア	
	環境・産業保健学概論E	1	通		2			○		2					兼 5	オムニバス・共同(一部)・メディア	
	医療福祉政策・管理学概論E	1	通		2			○		1			1			オムニバス・共同(一部)・メディア	
	社会行動科学概論E	1	通		2			○							兼 2	オムニバス	
	公衆衛生政策論E	1	後		2			○		6	1	1			兼 1	共同メディア	
	医学概論E	1	通		2			○							兼 1		
小計 ( 8 科目)		—		0	16	0	—			9	1	1	1	0	兼 13	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次		単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	国際保健学分野・感染症学	国際保健学概論E	1	後	2		○			1		1			兼 3	オムニバス・共同（一部）・メディア
		感染症学	1	後	2		○			3						オムニバス
		国際保健・感染症学課題研究指導	1 2	通	8			○		4	1				兼 1	共同
	小計（3科目）		—		0	12	0	—		4	1	1	0	0	兼 4	—
	医療福祉政策分野・管理	医療福祉政策・管理学各論	1	後	2		○			1			1		兼 2	オムニバス・共同（一部）・メディア
		医療福祉データサイエンス	1	後	2		○			1			1		兼 1	オムニバス・共同（一部）・メディア
		医療福祉政策・管理学課題研究指導	1 2	通	8			○		2						共同
	小計（3科目）		—		0	12	0	—		2	0	0	1	0	兼 3	—
	疫学・社会予防医学分野	疫学・生物統計学各論	1	後	2		○			3					兼 1	オムニバス・メディア
		予防医学概論	1	後	2		○			5					兼 1	オムニバス・メディア
		疫学・社会予防医学課題研究指導	1 2	通	8			○		5					兼 1	共同
	小計（3科目）		—		0	12	0	—		7	0	0	0	0	兼 3	—
合計（36科目）		—		14	78	0	—		14	1	1	1	0	兼 34	—	

学位又は称号	公衆衛生学修士（専門職）	学位又は学科の分野	保健衛生学関係（看護学関係を除く）																								
卒業要件及び履修方法		授業期間等																									
卒業要件 30単位以上 ①医療系学部出身：必修22単位（うち分野必修8単位）、選択8単位（うち分野選択必修2単位）以上 ②非医療系学部出身：必修24単位（うち分野必修8単位）、選択6単位（うち分野選択必修2単位）以上		1学年の学期区分	2期																								
		1学期の授業期間	前後期：15週																								
		1時限の授業時間	90分																								
留学生は、英語科目又は英語科目と同一内容の日本語科目のいずれかを選択し履修するものとする。 日本語科目とそれに対応する英語科目の一覧を下表のごとく、履修の手引きに記載し、教員・院生に周知する。 表：日本語科目とそれに対応する英語科目（E科目）一覧 （院生はどちらか一方を履修しなければならないが、両者を履修することはできない。）																											
<table border="1"> <tbody> <tr> <td>ア 研究倫理特論</td> <td>⇔</td> <td>研究倫理特論E</td> </tr> <tr> <td>イ 生物統計学概論</td> <td>⇔</td> <td>生物統計学概論E</td> </tr> <tr> <td>ウ 疫学概論</td> <td>⇔</td> <td>疫学概論E</td> </tr> <tr> <td>エ 環境・産業保健学概論</td> <td>⇔</td> <td>環境・産業保健学概論E</td> </tr> <tr> <td>オ 医療福祉政策・管理学概論</td> <td>⇔</td> <td>医療福祉政策・管理学概論E</td> </tr> <tr> <td>カ 社会行動科学概論</td> <td>⇔</td> <td>社会行動科学概論E</td> </tr> <tr> <td>キ 公衆衛生政策論</td> <td>⇔</td> <td>公衆衛生政策論E</td> </tr> <tr> <td>ク 医学概論</td> <td>⇔</td> <td>医学概論E（クは非医療系のみ必修）</td> </tr> </tbody> </table>				ア 研究倫理特論	⇔	研究倫理特論E	イ 生物統計学概論	⇔	生物統計学概論E	ウ 疫学概論	⇔	疫学概論E	エ 環境・産業保健学概論	⇔	環境・産業保健学概論E	オ 医療福祉政策・管理学概論	⇔	医療福祉政策・管理学概論E	カ 社会行動科学概論	⇔	社会行動科学概論E	キ 公衆衛生政策論	⇔	公衆衛生政策論E	ク 医学概論	⇔	医学概論E（クは非医療系のみ必修）
ア 研究倫理特論	⇔	研究倫理特論E																									
イ 生物統計学概論	⇔	生物統計学概論E																									
ウ 疫学概論	⇔	疫学概論E																									
エ 環境・産業保健学概論	⇔	環境・産業保健学概論E																									
オ 医療福祉政策・管理学概論	⇔	医療福祉政策・管理学概論E																									
カ 社会行動科学概論	⇔	社会行動科学概論E																									
キ 公衆衛生政策論	⇔	公衆衛生政策論E																									
ク 医学概論	⇔	医学概論E（クは非医療系のみ必修）																									

教育課程等の概要

(医学研究科公衆衛生学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次		単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	研究倫理特論	1	前	2			○								兼 2	オムニバス・メディア
	生物統計学概論	1	前	2			○			2						オムニバス・メディア
	疫学概論	1	前	2			○			1					兼 2	オムニバス
	環境・産業保健学概論	1	前	2			○			2					兼 7	オムニバス・共同（一部）・メディア
	医療福祉政策・管理学概論	1	前	2			○			1			1			オムニバス・共同（一部）
	社会行動科学概論	1	前	2			○								兼 2	オムニバス・メディア
	公衆衛生政策論	1	後	2			○			6	1	1			兼 1	共同メディア
	インターンシップ I（基礎）	1 2	前 後		2			○		3						共同
	インターンシップ II（専門）	1 2	前 後		4			○		3						共同
	国際保健学各論E		2 前		2			○		1		1			兼 3	オムニバス・共同（一部）・メディア
	臨床疫学概論		2 前		2			○		3						オムニバス・メディア
	医療情報システム概論	1 2	前		2			○							兼 1	メディア
	国際感染症学		2 前		2			○		3						オムニバス・メディア
	医療経済学概論	1 2	後		2			○		1						メディア
	予防医学各論		2 前		2			○		3					兼 2	オムニバス・メディア
	質的研究法概論	1 2	後		2			○							兼 1	メディア
	臨床心理学概論	1 2	後		2			○							兼 10	オムニバス・メディア
災害医療論	1 2	後		2			○							兼 2	共同メディア	
小計（ 18 科目）		—		14	24	0	—			14	1	1	1	0	兼 30	—
療非系医	医学概論	1	前		2			○							兼 1	メディア
小計（ 1 科目）		—		0	2	0	—			0	0	0	0	0	兼 1	—
留学生用	研究倫理特論E	1	通		2			○							兼 2	オムニバス・メディア
	生物統計学概論E	1	通		2			○		1					兼 1	オムニバス・メディア
	疫学概論E	1	通		2			○		1					兼 2	オムニバス・メディア
	環境・産業保健学概論E	1	通		2			○		2					兼 5	オムニバス・共同（一部）・メディア
	医療福祉政策・管理学概論E	1	通		2			○		1			1			オムニバス・共同（一部）
	社会行動科学概論E	1	通		2			○							兼 2	オムニバス・メディア
	公衆衛生政策論E	1	後		2			○		6	1	1			兼 1	共同メディア
	医学概論E	1	通		2			○							兼 1	メディア
小計（ 8 科目）		—		0	16	0	—			9	1	1	1	0	兼 13	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次		単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	国際保健学分野・感染症学分野	国際保健学概論E	1	後	2		○			1		1			兼 3	オムニバス・共同（一部）・メディア	
		感染症学	1	後	2		○			3							オムニバス・メディア
		国際保健・感染症学課題研究指導	1 2	通	8			○		4	1				兼 1	共同	
	小計（3科目）		—		0	12	0	—		4	1	1	0	0	兼 4	—	
	医療福祉政策・管理学分野	医療福祉政策・管理学各論	1	後	2		○			1			1		兼 2	オムニバス・共同（一部）・メディア	
		医療福祉データサイエンス	1	後	2		○			1			1		兼 1	オムニバス・共同（一部）	
		医療福祉政策・管理学課題研究指導	1 2	通	8			○		2						共同	
	小計（3科目）		—		0	12	0	—		2	0	0	1	0	兼 3	—	
	疫学・社会予防医学分野	疫学・生物統計学各論	1	後	2		○			3					兼 1	オムニバス・メディア	
		予防医学概論	1	後	2		○			5					兼 1	オムニバス・メディア	
		疫学・社会予防医学課題研究指導	1 2	通	8			○		5					兼 1	共同	
	小計（3科目）		—		0	12	0	—		7	0	0	0	0	兼 3	—	
合計（36科目）		—		14	78	0	—		14	1	1	1	0	兼 34	—		

学位又は称号	公衆衛生学修士（専門職）	学位又は学科の分野	保健衛生学関係（看護学関係を除く）																								
卒業要件及び履修方法		授業期間等																									
卒業要件 30単位以上 ①医療系学部出身：必修22単位（うち分野必修8単位）、選択8単位（うち分野選択必修2単位）以上 ②非医療系学部出身：必修24単位（うち分野必修8単位）、選択6単位（うち分野選択必修2単位）以上		1学年の学期区分	2期																								
		1学期の授業期間	前後期：15週																								
		1時限の授業時間	90分																								
留学生は、英語科目又は英語科目と同一内容の日本語科目のいずれかを選択し履修するものとする。 日本語科目とそれに対応する英語科目の一覧を下表のごとく、履修の手引きに記載し、教員・院生に周知する。 表：日本語科目とそれに対応する英語科目（E科目）一覧 （院生はどちらか一方を履修しなければならないが、両者を履修することはできない。）																											
<table border="1"> <tbody> <tr> <td>ア 研究倫理特論</td> <td>⇔</td> <td>研究倫理特論E</td> </tr> <tr> <td>イ 生物統計学概論</td> <td>⇔</td> <td>生物統計学概論E</td> </tr> <tr> <td>ウ 疫学概論</td> <td>⇔</td> <td>疫学概論E</td> </tr> <tr> <td>エ 環境・産業保健学概論</td> <td>⇔</td> <td>環境・産業保健学概論E</td> </tr> <tr> <td>オ 医療福祉政策・管理学概論</td> <td>⇔</td> <td>医療福祉政策・管理学概論E</td> </tr> <tr> <td>カ 社会行動科学概論</td> <td>⇔</td> <td>社会行動科学概論E</td> </tr> <tr> <td>キ 公衆衛生政策論</td> <td>⇔</td> <td>公衆衛生政策論E</td> </tr> <tr> <td>ク 医学概論</td> <td>⇔</td> <td>医学概論E（クは非医療系のみ必修）</td> </tr> </tbody> </table>				ア 研究倫理特論	⇔	研究倫理特論E	イ 生物統計学概論	⇔	生物統計学概論E	ウ 疫学概論	⇔	疫学概論E	エ 環境・産業保健学概論	⇔	環境・産業保健学概論E	オ 医療福祉政策・管理学概論	⇔	医療福祉政策・管理学概論E	カ 社会行動科学概論	⇔	社会行動科学概論E	キ 公衆衛生政策論	⇔	公衆衛生政策論E	ク 医学概論	⇔	医学概論E（クは非医療系のみ必修）
ア 研究倫理特論	⇔	研究倫理特論E																									
イ 生物統計学概論	⇔	生物統計学概論E																									
ウ 疫学概論	⇔	疫学概論E																									
エ 環境・産業保健学概論	⇔	環境・産業保健学概論E																									
オ 医療福祉政策・管理学概論	⇔	医療福祉政策・管理学概論E																									
カ 社会行動科学概論	⇔	社会行動科学概論E																									
キ 公衆衛生政策論	⇔	公衆衛生政策論E																									
ク 医学概論	⇔	医学概論E（クは非医療系のみ必修）																									

授 業 科 目 の 概 要			
(医学研究科公衆衛生学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	研究倫理特論	<p>研究に携わる者としての研究倫理に関する基本原則を学ぶとともに、その理念にもとづいて研究を実施するために必要な、科学的合理性や対象者保護について学ぶ。具体的には、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」をはじめとする各種指針・ガイドラインを読み解き、それに基づいて研究を計画・実践するために必要なスキルを教示する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(21 三浦総一郎/1回) 研究不正, 出版倫理</p> <p>(36 西垣昌和/14回) 臨床研究の歴史と被検者保護、臨床研究における研究不正と行動規範、研究実施に当たって考慮すべき倫理、日本における研究倫理指針・法の変遷、倫理指針1:用語の定義、倫理指針2:研究の適正な実施、研究デザイン別計画・報告ガイドライン: Equator network、倫理指針3: インフォームドコンセント、倫理指針4: 倫理審査委員会、倫理指針5: 個人情報保護、臨床研究法、特定臨床研究、倫理申請書の作成、研究実施中・後の研究倫理、まとめ</p>	オムニバス方式
	生物統計学概論	<p>実際の臨床・疫学研究を題材に生物統計学を基礎から講義する。医学研究で得られる様々なデータの種類や分布の特徴を理解し、適切なデータの要約やグラフ表示の方法を学ぶ。推定(信頼区間)と仮説検定の概念を理解するほか、2群比較の方法とその際の共変量の調整方法やサンプルサイズの設定、相関や回帰、多群比較および多重性の調整について学ぶ。以上のコンピテンシー基盤型教育により、生物統計学の体系的で豊富な知識とそれを活用することによる科学的に検証する能力を獲得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(① 山崎 力/8回) 生存時間と群間比較、サンプルサイズ設定、多群比較と多重性の調整、共変量調整の手法、生存時間分析の共変量調整、経時データ解析の手法、まとめ</p> <p>(12 桜井亮太/7回) イントロダクション、データの種類と記述統計、1標本問題: 推定、1標本問題: 仮説検定、群間の比較、相関、回帰、分散、重回帰とロジスティック回帰</p>	オムニバス方式
	疫学概論	<p>疫学を学ぶための第一歩は、疫学の歴史に関する知識の習得と疫学における専門用語の理解である。それらの理解を踏まえて、疫学の研究デザインを概観し、主要疾患(がん、循環器疾患、感染症)の疫学についてその概略を講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(② 飯室 聡/11回) 疫学の歴史、集団の健康状態の把握に用いる指標、研究デザイン: 観察研究、研究デザイン: 介入研究、因果関係、信頼性と妥当性、がんの疫学、生活習慣病の疫学</p> <p>(29 平松達雄/2回) 医療ビッグデータ研究のデザイン</p> <p>(42 藤田 烈/2回) 感染症の疫学</p>	オムニバス方式

共通科目	共通	環境・産業保健学概論	<p>人間は、その諸活動（生産、消費など）による、周囲の自然及び人為環境との相互作用により、個人および集団レベルで様々な健康影響を受ける。産業・環境保健はこうした健康影響を、特に労働と社会生活の中で取り上げ、人々の疾病予防と健康増進をめざす学術である。その課題は時代とともに変化し、特に、最近のわが国では、多様化・複雑化が著しい。従って、本科目では、産業・環境保健の基本（principle）と現代の課題を理解することを目標とする。さらに、この領域における研究法の取得をめざす。</p> <p>（オムニバス方式/全15回）</p> <p>（8 中田光紀/1回） 睡眠と休養</p> <p>（15 津金昌一郎/1回） 最近の話題1：環境因子と発がん</p> <p>（22 横山和仁/6回） 環境保健・産業保健とは何か、環境・産業保健に係わる法令と行政、化学的要因による健康障害、物理的及び人間工学的要因による健康障害、生物学的要因による健康障害、環境倫理</p> <p>（23 上別府圭子/1回） 最近の話題7：仕事と家庭生活</p> <p>（30 斎藤照代/1回） 最近の話題4：職場における喫煙対策</p> <p>（36 西垣昌和/1回） 最近の話題5：公衆衛生におけるゲノム情報の活用</p> <p>（38 岡村世里奈/1回） 最近の話題2：外国人労働者の医療・福祉問題</p> <p>（44 鈴木知子/1回） 最近の話題6：職域における発達障害</p> <p>（48 亀山晶子/1回） 最近の話題3：多様化する職場のうつ</p> <p>（8 中田光紀・22 横山和仁/1回）（共同） 総括</p>	オムニバス方式、共同（一部）
		医療福祉政策・管理学概論	<p>医療福祉領域において限られた資源を適正に分配するための原理・原則と行動計画の策定、サービス提供の現場における管理について知識を身につける。具体的事例として、我が国における社会保障制度全体における医療保険制度の位置づけ、医療保険制度の現状と課題、医療提供体制及び公的医療保険制度のあり方などを学ぶとともに、海外の事例を用いて国際的視野に基づく検討を加える。</p> <p>（オムニバス方式/全15回）</p> <p>（9 石川ベンジャミン光一/14回） イントロダクション、国民皆保険制度、医療保険の財政的側面、給付と負担、診療報酬制度（出来高評価）、診療報酬制度（包括評価と指導・監査）、医療提供に関する法令、医療政策の決定過程、医療保険者と保険者機能、医療の安全と質の評価、諸外国の医療制度（1）欧州・アジア、諸外国の医療制度（2）米国、地域医療構想と地域医療計画、まとめと今後の展望</p> <p>（9 石川ベンジャミン光一・13 笠島めぐみ/1回）（共同） 医療需要の予測と介護保険制度・医療と介護の総合的な確保</p>	オムニバス方式、共同（一部）

共通科目	共通	社会行動科学概論	<p>行動科学理論に基づいた生活習慣の変容、健康増進活動などを導くための基本知識を学習する。各種の条件付け、自己効力感といった行動科学の概念が健康評価にどのように役立つか討論する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(26 岡 孝和/11回) 健康とは、医療における行動科学の役割、健康と行動の関連、健康教育、保健行動、行動科学の理論、行動科学モデル、エンパワーメント教育、ライフスキル教育、まとめ</p> <p>(32 中里道子/4回) 保健行動に関わる社会的要因、保健行動に関わる心理的要因、健康づくりとは</p>	オムニバス方式
		公衆衛生政策論	<p>日本および世界における公衆衛生上の課題について、関連する専門知識・経験を持つ実務家教員等による講義にて基本的な知識について説明を受けた上で、具体的な事例に関するケースを用いて、小グループでディスカッションおよびグループワークを行う。ディスカッションやグループワークに対して教員によるフィードバックを提供する。</p>	共同
		インターンシップⅠ（基礎）	<p>公衆衛生分野の専門家には、公衆衛生上の課題解決のために、課題を分析し、具体的な対策を立案し、それを実施する能力が求められる。また、その過程において、様々なステークホルダーと対話し、パートナーシップを築き、調整しつつ行動することが求められる。そのため、各学生が志向する分野の実務を経験できる機関を選定し、そこで2週間の実務経験を通じて、コミュニケーション能力、マネジメント能力を含む公衆衛生の専門家としての基本的な能力について理解し、それを獲得する。</p>	共同
		インターンシップⅡ（専門）	<p>公衆衛生分野の専門家には、公衆衛生上の課題解決のために、課題を分析し、具体的な対策を立案し、それを実施する能力が求められる。また、その過程において、様々なステークホルダーと対話し、パートナーシップを築き、調整しつつ行動することが求められる。基礎を履修した学生がさらに4週間の実務経験を重ねることにより、コミュニケーション能力、マネジメント能力及び問題解決に向けたアドボカシー能力を含む公衆衛生の専門家としての専門性が高かつ即戦力となりえる実務能力を獲得する。</p>	共同

共通科目	共通	国際保健学各論E	<p>In this course, students identify health challenges in countries and regions with data analysis, and create evidence-based recommendations to tackle the challenges. Since public health challenges in the 21st century are global issues, the course provides an in-depth understanding of diversity and multi-sectoral approach. Students will obtain skills to communicate the recommendations effectively. Students who take this course are highly recommended to take the [Principles of Global Health Course] as well.</p> <p>本科目では、各国及び各地域の健康に関わる課題をデータに基づき明確にし、その解決のため、エビデンスに基づく方策の提言に結び付ける。21世紀の公衆衛生上の課題の多くは地球規模の課題となっていることから、多様性を認め様々なセクターと協働することについて深く理解する。また、発表や討議を通して、提言を効果的に他者に伝えるスキル、コミュニケーション能力についても学習する。なお、本講の受講者は国際保健概論Eも併せて受講することが望ましい。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (16 山本尚子/2回)</p> <p>Agendas setting of global health, and policy making at global and regional level, Japan strategy of the global health diplomacy 国際保健のアジェンダ設定及び世界及び地域レベルの政策決定、日本の国際保健外交戦略 (⑤ 遠藤弘良/2回)</p> <p>UN Sustainable Development Goals and global health, global health data, Various players in global health field 国連持続可能な開発目標と国際保健の関係、国際保健データ、国際保健に関わるプレイヤー (⑥ 葛西 健/2回)</p> <p>Global health and finance, The role and decision making mechanism of UN organizations, the role of member states (about WHO and others) 国際保健とファイナンス、国連機関の取り組みとその方針決定の仕組み、各国政府の役割 (WHO他) (16 山本尚子・18 竹内理恵/2回) (共同)</p> <p>Course Outline and guidance on individual assignment, Individual assignment to identify global health challenges in specific country or region based on data analysis 個人の課題テーマ設定のオリエンテーション、具体的な地域あるいは国における健康に関する課題分析 (各学生個人による課題テーマ選定・データ分析) (16 山本尚子・④ 高谷紗帆/1回) (共同)</p> <p>Creating reports with recommendations to overcome the challenges 抽出した課題克服のための提言の作成・レポートのとりまとめ (16 山本尚子・18 竹内理恵 ④ 高谷紗帆 ⑥ 葛西 健/3回) (共同)</p> <p>Interim report presentation and discussion, Completing reports with recommendations to overcome the challenges, Presentation, discussion and final evaluation 各学生による課題の分析結果の発表・討論、抽出した課題克服のための提言の作成・レポートのとりまとめ、発表・討論と評価 (18 竹内理恵・④ 高谷紗帆/1回) (共同)</p> <p>Individual assignment to identify global health challenges in specific country or region based on data analysis 具体的な地域あるいは国における健康に関する課題分析 (各学生個人による課題テーマ選定・データ分析) (18 竹内理恵・⑥ 葛西 健/2回) (共同)</p> <p>Individual assignment to identify global health challenges in specific country or region based on data analysis, Creating reports with recommendations to overcome the challenges 具体的な地域あるいは国における健康に関する課題分析 (各学生個人による課題テーマ選定・データ分析)、抽出した課題克服のための提言の作成・レポートのとりまとめ</p>	オムニバス方式、共同 (一部)
------	----	----------	--	-----------------

共通科目	共通	臨床疫学概論	<p>研究実施にあたり、研究仮説を立て、適切なデザインを構築し、データや情報を適切に収集、取捨選択・統合・分析した後に、得られた情報を批判的に吟味して、臨床的に妥当な結論を導き出す。これら一連のプロセスを遂行するために不可欠となる臨床疫学の理論および実践的な方法論を身につける。具体的にはデータの取り扱い、臨床医学的検査の有効性（感度、特異度、事後確率、ROC曲線）、リスク評価、研究デザインとバイアス、統計解析結果の解釈などについて学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(① 山崎 力/6回) 臨床疫学総論、正常か異常か、診断用検査、診断のプロセス、研究計画、N-of-1 トライアル、 頻度、疫学指標、統計</p> <p>(12 桜井亮太/7回) 医学的判断、研究の批判的吟味、メタアナリシス、予後、原因、narrative based medicine、総括</p> <p>(15 津金昌一郎/2回) がん予防とがん検診</p>	オムニバス方式
		医療情報システム概論	<p>医療に関連する情報技術 (Information Technology) と、それを扱う情報システムについて概説する。そのために、まず医療情報の特徴について学習する。その上で、医療情報の発生から利用にいたるまでの情報の流れを説明し、その流れを支える情報システムを解説する。医療に関連する情報技術や情報システムを理解するために必要なコンピュータの知識についても講義を行う。</p>	
		国際感染症学	<p>感染症は一部地域の問題ではなく、新型コロナウイルス感染症のように世界全体を巻き込んで社会全体に大きな影響を与えるものもある。そこで本コースでは世界の人々の健康を脅かしている感染症の現状と背景をなしている課題を学習する。また、サーベイランスの手法を始め、公衆衛生専門家としてアウトブレイク対策など各種対策における役割を理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(6 松本哲哉/8回) 感染症の概念と歴史の変遷、新興、再興感染症、世界規模における感染症流行の現状と対策、国内における感染症流行の現状と対策、感染症サーベイランスの方法論</p> <p>(10 矢野晴美/4回) 感染症診断学（総論）、感染症治療学（総論）、医療機関における感染症診療の位置付け、総括</p> <p>(19 加藤康幸/3回) 渡航感染症（総論）、渡航感染症（各論）、感染症に関わる医療スタッフとその役割</p>	オムニバス方式
		医療経済学概論	<p>医療経済評価を中心とした医療経済学について、その理解に必要な統計学や医療制度に関する知識を学ぶとともに、最先端の分析手法と政策への応用の実例について学習する。</p> <p>医療経済学とくに医療経済評価の基本的な考え方を修得するとともに、国内外における政策利用の現状と課題について理解する。</p>	

共通科目	共通	<p>講義に加えてケーススタディを行うことで、各種疾患の予防医学についての理解を更に深めるとともに、多様な健診（検診）施設の運営実態について学ぶ。さらに、国際健診医療を理解し、健診（検診）データを活用した臨床研究を立案・実施できる能力を身につけ、予防医学の社会的還元に貢献できる研究能力を獲得する。</p> <p>（オムニバス方式/全15回）</p> <p>（2 青木大輔/2回）          予防：癌、予防：婦人科疾患（乳癌含む）</p> <p>（① 山崎 力/10回）          予防：動脈硬化性疾患（脳心血管疾患）、予防：糖尿病、高血圧、脂質異常症、予防：肥満とメタボリックシンドローム、予防：消化器疾患、予防：呼吸器疾患、予防：泌尿器疾患、国際健診医療（海外事情など）、健診（検診）データの解釈に関する演習、シミュレータによる実技演習、まとめ</p> <p>（6 松本哲也/1回）          感染症の予防と対策</p> <p>（29 平松達雄/1回）          健診（検診）データ活用のための安全管理と匿名化</p> <p>（42 藤田 烈/1回）          ワクチン（ポリオ、子宮頸癌ワクチン、mRNAワクチンなど）</p>	オムニバス方式
		<p>質的研究法概論</p> <p>健康科学に関連する諸分野では、質的研究による学術的・実践的貢献が期待できる領域が広がっている。この講義では、さまざまな種類の質的研究の論文等に触れ、質的研究とは何か、なぜ質的研究が必要か、どのような場合に質的研究が行われるか、どのように質的研究を行うかについて、基礎的な知識を学ぶ。</p>	

共通科目	共通	臨床心理学概論	<p>臨床心理学の内容について、実践例を含めた講義を通して、多面的に学ぶことで、臨床心理学の活動分野と活動内容のイメージを具体的に持つ。各臨床領域での臨床心理の活動の実際を知ること、医療福祉専門職の受講生が、臨床心理士との他職種連携を行っていく際の、臨床心理学の専門職の理解の一助とする。併せて、臨床心理学的知見を、自身の専門分野に生かしていくヒントを得る機会とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(20 村上正人/1回) 日常生活に活かす心身医学</p> <p>(25 橋本和明/1回) 虐待を受けた子どもの心理</p> <p>(33 白井明美/1回) トラウマ・悲嘆を理解する</p> <p>(37 西村信子/1回) 子どもの発達</p> <p>(39 小嶋秀吾/5回) 認知症の本人理解・介護家族の理解と支援、精神医学の人間観、非行・犯罪の心理、ステイホームでリラクゼーション、臨床心理面接の基本的態度</p> <p>(40 橋本和典/1回) 甘えと困難患者反応-力動心理学の視点から</p> <p>(43 長谷川晃/1回) 認知行動療法の基礎</p> <p>(45 中野真也/2回) カウンセリングによる治療・支援、家族への心理支援とその必要性</p> <p>(47 中村美穂/1回) 学校コンサルテーションの理論と実践</p> <p>(48 亀山晶子/1回) 多様化する時代の新しいうつ病の形</p>	オムニバス方式
		災害医療論	<p>災害時の保健医療対応の最新の知見や動向を概観し、所属組織や各専門領域における災害対応計画や活動のありかたを考える機会とする。</p>	共同
	非医療系	医学概論	<p>前半では、臨床医学の内容を適切に理解するための基礎医学領域の講義をする。人体の構造と機能について理解するため分子・細胞レベルから臓器レベルに至るまでの正常構造と機能、それに引き続き疾患の成因・病態および治療の理解に必要な基礎知識を学ぶ。</p> <p>後半では、広く保健、医療、福祉に携わる保健医療従事者が連携していく上で不可欠な臨床医学に関する基礎知識および課題について講義する。その中でも、特に医療福祉の現場で経験する事の多い専門領域を取り上げる。</p>	

<p>共通科目</p>	<p>留学生用</p>	<p>研究倫理特論E</p>	<p>Students will learn basic principles of research ethics and then scientific rigor and subject protection. Details of ethical guidelines including "the Ethical guidelines for medical and biological research involving human subjects" will be shown.</p> <p>研究に携わる者としての研究倫理に関する基本原則を学ぶとともに、その理念にもとづいて研究を実施するために必要な、科学的合理性や対象者保護について学ぶ。具体的には、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」をはじめとする各種指針・ガイドラインを読み解き、それに基づいて研究を計画・実践するために必要なスキルを教示する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(21 三浦総一郎/1回) Research Misconduct, Publication Ethics 研究不正, 出版倫理</p> <p>(36 西垣昌和/14回) History of Clinical Research and Subject Protection, Research Misconduct and Code of Conduct in Clinical Research, Ethics to Consider when Conducting Research, Changes in Research Ethics Guidelines and Laws in Japan, Ethical Guidelines 1: Definitions of Terms, Ethical Guideline 2: Appropriate Conduct of Research, Guidelines for Planning and Reporting by Research Design: Equator network, Ethical Guideline 3: Informed Consent, Ethical Guideline 4: Ethical Review Committee, Ethical Guideline 5: Protection of Personal Information, Clinical Research Act, Specific Clinical Research, Preparation of Application Forms for Ethical Review Board, Research Ethics During and After Research, Summary 臨床研究の歴史と被検者保護、臨床研究における研究不正と行動規範、研究実施に当たって考慮すべき倫理、日本における研究倫理指針・法の変遷、倫理指針1:用語の定義、倫理指針2:研究の適正な実施、研究デザイン別計画・報告ガイドライン: Equator network、倫理指針3: インフォームドコンセント、倫理指針4: 倫理審査委員会、倫理指針5: 個人情報保護、臨床研究法、特定臨床研究、倫理申請書の作成、研究実施中・後の研究倫理、まとめ</p>	<p>オムニバス方式</p>
-------------	-------------	----------------	---	----------------

<p>共通科目</p>	<p>留学生用</p>	<p>生物統計学概論E</p>	<p>This lecture will cover the basics of biostatistics using actual clinical and epidemiological studies. Students will understand the characteristics of various types and distributions of data obtained in medical research, and learn how to summarize and graphically display data appropriately. In addition to understanding the concepts of estimation (confidence intervals) and hypothesis testing, students will learn how to perform two-group comparisons with covariate adjustment, sample size determination, correlations, regressions, multi-group comparison, and multiplicity adjustment.</p> <p>実際の臨床・疫学研究を題材に生物統計学を基礎から講義する。医学研究で得られる様々なデータの種類や分布の特徴を理解し、適切なデータの要約やグラフ表示の方法を学ぶ。推定（信頼区間）と仮説検定の概念を理解するほか、2群比較の方法とその際の共変量の調整方法やサンプルサイズの設定、相関や回帰、多群比較および多重性の調整について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(12 桜井亮太/7回) Introduction, Data types &amp; summarization, &amp; graphs, Estimation, Hypothesis testing, Comparison between groups, Correlation, regression &amp; variance, Multiple regression &amp; logistic regression イントロダクション、データの種類と記述統計、1標本問題：推定、1標本問題：仮説検定、群間の比較、相関、回帰、分散、重回帰とロジスティック回帰</p> <p>(24 稲垣誠一/8回) Comparing two or more groups (1): Analysis of variance, Comparing two or more groups (2): Chi-square test, Errors in hypothesis testing/Sample size determination, Regression analysis (1): Multiple regression model, Regression analysis (2): Logistic regression model, Survival analysis (1): Comparing two survival curves, Survival analysis (2): Cox proportional hazard model, Conclusion: Summary of this course 多群間比較(1)：分散分析、多群間比較(2)：<math>\chi^2</math>乗検定、仮説検定の誤差/サンプルサイズ決定、回帰分析(1)：多重回帰モデル、回帰分析(2)：ロジスティック回帰モデル、生存解析(1)：生存曲線の比較、生存解析(2)：Cox比例ハザードモデル、まとめ</p>	<p>オムニバス方式</p>
-------------	-------------	-----------------	--	----------------

<p>共通科目</p>	<p>留学生用</p>	<p>疫学概論E</p>	<p>The first step in learning epidemiology is to acquire knowledge about the history of epidemiology and to accurately understand the terminology. Based on those understandings, we will review the research design of epidemiology and give overviews of the epidemiology of major diseases (cancer, cardiovascular disease, and infectious diseases).  疫学を学ぶための第一歩は、疫学の歴史に関する知識の習得と疫学における専門用語の理解である。それらの理解を踏まえて、疫学の研究デザインを概観し、主要疾患（がん、循環器疾患、感染症）の疫学についてその概略を講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(② 飯室 聡/11回)  History of epidemiology, Indicators used to determine the health status of a population, Study design observational study, Study design ointervention study, Causality, Reliability and Validity, Epidemiology of cancer, Epidemiology of lifestyle diseases  疫学の歴史、集団の健康状態の把握に用いる指標、研究デザイン 観察研究、研究デザイン 介入研究、因果関係、信頼性と妥当性、がんの疫学、生活習慣病の疫学</p> <p>(29 平松達雄/2回)  Research desing on medical big data  医療ビッグデータ研究のデザイン</p> <p>(42 藤田 烈/2回)  Epidemiology of infectious disease  感染症の疫学</p>	<p>オムニバス方式</p>
-------------	-------------	--------------	--	----------------

共通科目	留学生用	環境・産業保健学概論E	<p>Human activities (production, consumption, etc.) interact with the surrounding natural and anthropogenic environment, resulting in a variety of health effects at the individual and collective levels. Occupational and environmental health is a science and art that addresses these health effects, especially in the context of work and social life, and aims to prevent disease and promote the health of people. These issues have changed over time, and in Japan, in particular, they have become increasingly diverse and complex in recent years. Therefore, this course aims to provide students with an understanding of the fundamentals (principles) and contemporary issues in occupational and environmental health. In addition, the course aims at acquiring research methods.</p> <p>人間は、その諸活動（生産、消費など）による、周囲の自然および人為環境との相互作用により、個人および集団レベルで様々な健康影響を受ける。産業・環境保健はこうした健康影響を、特に労働と社会生活の中で取り上げ、人々の疾病予防と健康増進をめざす学術である。その課題は時代とともに変化し、特に、最近のわが国では、多様化・複雑化が著しい。従って、本科目では、産業・環境保健の基本（principle）と現代の課題を理解することを目標とする。さらに、この領域における研究法の取得をめざす。</p> <p>（オムニバス方式/全15回）</p> <p>（8 中田光紀/1回） Sleep and Rest 睡眠と休養</p> <p>（15 津金昌一郎/1回） Current Topics in EOH 1 Environmental Factors and Carcinogenesis 最近の話題1 環境因子と発がん</p> <p>（22 横山和仁/8回） What is Environmental and Occupational Health?, Laws, Regulations, and Administration Related to Environmental and Occupational Health, Health Hazards Caused by Chemical Factors, Report Writing: Epidemiology in EOH, Health Hazards due to Physical and Ergonomic Factors, Health Hazards due to Biological Factors, Environmental Ethics, Current Topics in EOH 5 Self-Endangering Work Behavior 環境保健・産業保健とは何か、環境・産業保健に係わる法令と行政、化学的要因による健康障害、課題レポート作成：疫学と環境・産業保健、物理的および人間工学的要因による健康障害、生物学的要因による健康障害、環境倫理、最近の話題5 Self-Endangering Work Behavior（自己を危険にさらす働き方）</p> <p>（28 Myat Thandar/1回） Current Topics in EOH 6 Environmental Health Issues in Developing Countries 最近の話題6 開発途上国の環境保健</p> <p>（36 西垣昌和/1回） Current Topics in EOH 4 Use of Genome Information in Public Health 最近の話題4 公衆衛生におけるゲノム情報の活用</p> <p>（39 岡村世里奈/1回） Current Topics in EOH 2 Medical and Welfare Issues of Foreign Workers 最近の話題2 外国人労働者の医療・福祉問題</p> <p>（50 亀山晶子/1回） Current Topics in EOH 3 Diversification of Depression in the Workplace 最近の話題3 多様化する職場のうつ</p> <p>（8 中田光紀・22 横山和仁/1回）（共同） Summary 総括</p>	オムニバス方式、共同（一部）
------	------	-------------	--	----------------

共通科目	留学生用	医療福祉政策・管理学概論E	<p>This course provides fundamental knowledge in healthcare policy and management, through an overview of Japanese universal health insurance and comparative discussion on health systems in Europe, Asia and united states. 医療福祉領域において限られた資源を適正に分配するための原理・原則と行動計画の策定、サービス提供の現場における管理について知識を身につける。具体的事例として、我が国における社会保障制度全体における医療保険制度の位置づけ、医療保険制度の現状と課題、医療提供体制及び公的医療保険制度のあり方などを学ぶとともに、海外の事例を用いて国際的視野に基づく検討を加える。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(9 石川ベンジャミン光一/14回)</p> <p>Introduction, Universal Health Coverage, Financial aspects of public health insurance, Insurance premiums, government subsidy and benefits, Payment of medical fees: fee-for-service, Payment of medical fees: prospective payment and auditing, Laws related to healthcare provision, Formulation of Healthcare policy, Health insurance payers and their roles in healthcare management, Healthcare safety and quality, Healthcare systems: Europe and Asia, Healthcare systems: United States, Regional healthcare provision and planning, Summary and future perspectives イントロダクション、国民皆保険制度、医療保険の財政的側面、給付と負担、診療報酬制度(出来高評価)、診療報酬制度(包括評価と指導・監査)、医療提供に関する法令、医療政策の決定過程、医療保険者と保険者機能、医療の安全と質の評価、諸外国の医療制度(1)欧州・アジア、諸外国の医療制度(2)米国、地域医療構想と地域医療計画、まとめと今後の展望</p> <p>(9 石川ベンジャミン光一・13 笠島めぐみ/1回) (共同)</p> <p>Forecasting healthcare needs to streamline service provision 医療需要の予測と介護保険制度・医療と介護の総合的な確保</p>	オムニバス方式、共同(一部)
		社会行動科学概論E	<p>This course is intended to learn basic knowledge about behavioral modification based on behavioral theories and activities for health promotions, as well as to discuss the usefulness of concepts of behavioral sciences like conditioning and self-efficacy for assessments of health. 行動科学理論に基づいた生活習慣の変容、健康増進活動などを導くための基本知識を学習する。各種の条件付け、自己効力感といった行動科学の概念が健康評価にどのように役立つか討論する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(26 岡 孝和/11回)</p> <p>Cocept of health, Role of behavioral science for health, Relationship between health and behavior, Health education, Health behavior, Theory of behavioral science, Model of behavioral science, Education of empowerment, Education of life skill, Summary 健康とは、医療における行動科学の役割、健康と行動の関連、健康教育、保健行動、行動科学の理論、行動科学モデル、エンパワーメント教育、ライフスキル教育、まとめ</p> <p>(32 中里道子/4回)</p> <p>Social determinants of health behavior, Psychological factors related to health behavior, Health promotion 保健行動に関わる社会的要因、保健行動に関わる心理的要因、健康づくりとは</p>	オムニバス方式

共通科目	留学生用	公衆衛生政策論E	<p>After receiving basic knowledge about public health issues in Japan and around the world through lectures by faculty members with relevant expertise and experience, students will engage in small group discussions and group work using cases related to specific issues. Faculty members will provide feedback on the discussions and group work.</p> <p>日本および世界における公衆衛生上の課題について、関連する専門知識・経験を持つ実務家教員等による講義にて基本的な知識について説明を受けた上で、具体的な事例に関するケースを用いて、小グループでディスカッションおよびグループワークを行う。ディスカッションやグループワークに対して教員によるフィードバックを提供する。</p>	共同
		医学概論E	<p>In the first half of the course, lectures will be given in the area of basic medicine for a better understanding of the content of clinical medicine. The normal structure and function of the human body, from the molecular and cellular level to the organ level, are covered, followed by the basic knowledge of pathophysiology and treatment of diseases. In the latter half of the course, basic knowledge and issues related to clinical medicine will be lectured, which is indispensable for healthcare professionals involved in a wide range of health and welfare. The focus is on common diseases.</p> <p>前半では、臨床医学の内容を適切に理解するための基礎医学領域の講義をする。人体の構造と機能について理解するため分子・細胞レベルから臓器レベルに至るまでの正常構造と機能、それに引き続き疾患の成因・病態および治療の理解に必要な基礎知識を学ぶ。</p> <p>後半では、広く保健、医療、福祉に携わる保健医療従事者が連携していく上で不可欠な臨床医学に関する基礎知識および課題について講義する。その中でも、特に医療福祉の現場で経験する事の多い専門領域を取り上げる。</p>	

<p style="text-align: center;">専門科目</p>	<p style="text-align: center;">国際保健・感染症学分野</p>	<p style="text-align: center;">国際保健学概論E</p>	<p>This course provides students with an in-depth understanding of the current health status, including health inequalities as well as the social determinants of health and their diversity in various countries and regions, The students will also understand mechanisms of international collaboration (bilateral, multilateral, public-private partnership, etc.) and efforts of the players (WHO, JICA, INGOs, etc.) to improve global health. In addition to lectures, through case studies, and discussions as well as group work about them, students will obtain communication skill and have knowledge of practices and actions to tackle global health challenges. Feedback from the faculty will be provided to students on assignments and class activities.</p> <p>世界の国々及び地域の人々の健康の現状、特に健康格差の問題、さらに健康に影響を与える社会的要因とその多様性について理解するとともに、その向上のための国際協力の仕組み（二国間協力・多国間協力・官民パートナーシップ等）及び国際保健を担う実施機関（WHO, JICA, 国際 NGO 等）の取り組みについて理解する。講義に加え具体的な事例やプロジェクトを提示し、それについてのディスカッションやグループワークを通してコミュニケーション能力を高め、国際保健について取り組む実務についても理解する。ディスカッションやグループワークに対して教員によるフィードバックを提供する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (16 山本尚子/3回)</p> <p>Primary Health Care (PHC) and Universal Health Coverage (UHC)、Nutrition and health, Food systems, Japan diplomacy on global health プライマリー・ヘルス・ケアとユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (PHCとUHC)、栄養と健康・食のシステム、日本の国際保健外交</p> <p>(18 竹内理恵/3回)</p> <p>Maternal and child health, Reproductive health and rights, and gender issues, Environment, climate change and health, Bilateral collaboration on global health (the role of JICA and others) 母子保健、リプロダクティブ・ヘルス及び権利、ジェンダー、環境、気候変動と健康、国際保健分野の二国間協力 (JICAの活動他)</p> <p>(④ 高谷紗帆/1回)</p> <p>Community empowerment, Global health by international NGOs コミュニティ・エンパワメント、国際NGOが取り組む国際保健</p> <p>(⑤ 遠藤弘良/2回)</p> <p>Infectious diseases control, Non-communicable diseases prevention and control 感染症の管理、NCDの予防と管理</p> <p>(⑥ 葛西 健/2回)</p> <p>Health crisis and disaster management, Multilateral collaboration on global health (the role of WHO and others) 健康危機・災害と国際保健、国際保健分野の多国間協力 (WHOの活動他)</p> <p>(16 山本尚子・18 竹内理恵/1回) (共同)</p> <p>Course outline and overview of global health, Group assignment guidance 国際保健の概要、グループ課題の説明</p> <p>(16 山本尚子・18 竹内理恵・④ 高谷紗帆・⑥ 葛西 健/3回) (共同)</p> <p>Discussion on group assignment and interim shortpresentation, Group work and discussion on the assignment, Group presentation, summing up and evaluation グループ課題に関する討議と中間発表、課題に関するグループ討議、グループ・プレゼンテーション、総括と評価</p>	<p>オムニバス方式、共同 (一部)</p>
---	--	---	--	------------------------

専 門 科 目	国際保健・感染症学分野	感染症学	<p>感染症は各種の病原体が存在し、ウイルス、細菌、真菌、原虫、寄生虫など多種多様である。また、宿主の免疫状態によっても引き起こされる病態は異なり、健常人でも発症する市中感染以外に、入院患者など免疫能が低下した患者が発症する日和見感染症や院内感染が存在する。本コースでは感染症全般について、各種病原体の特徴や引き起こされる疾患について学び、基本となる診断や治療法、感染対策などについても理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(6 松本哲哉/7回) 細菌学、感染免疫学、感染と発症</p> <p>(10 矢野晴美/4回) ウイルス学、熱帯医学</p> <p>(19 加藤康幸/4回) 微生物遺伝学、寄生虫学</p>	オムニバス方式
		国際保健・感染症学課題研究指導	<p>国際保健・感染症にかかわる諸問題の中の特定の課題について、個別に研究の指導を行い、調査、情報収集、分析等を経て、研究報告書を作成する。それぞれの過程でグループ内での意見交換を行い、指導教員のもとで自らの発表や討論により主体的に学習を進める。</p>	共同
	医療福祉政策・管理学分野	医療福祉政策・管理学各論	<p>国内外における医療福祉政策および医療福祉管理の現状と今後の動向について講義し、今後起こりうる諸課題に対しディスカッションやディベートを通じて具体的な対策を検討し、改善につなげるための方策について考察する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(7 池田俊也/9回) 医療の質・医療評価、看護管理、世界の医療制度：英国、世界の医療制度：ドイツ、世界の医療制度：米国、医薬品・医療機器政策、予防接種・ワクチン政策、まとめと討論</p> <p>(27 松田晋哉/3回) DPC、世界の医療制度：フランス、介護保険制度</p> <p>(49 石田 円/1回) 診療情報管理</p> <p>(7 池田俊也・13 笠島めぐみ/2回) (共同) 健康格差とその対策、認知症対策</p>	オムニバス方式、 共同 (一部)
		医療福祉データサイエンス	<p>システム科学的なアプローチによる課題解決法およびリアルワールドデータの取得とその分析における方法論および法・倫理面から必要とされる配慮などを理解したうえで、医療福祉領域における問題解決に向けたデータ利用方法に関する知識を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(9 石川ベンジャミン光一/12回) イントロダクション、医療福祉領域における大規模データ、診療記録と標準マスタ、DPCデータとは、DPCオープンデータ、DPCデータの地域医療分析、NDBデータと電子レセプト、NDBオープンデータ、NDBオープンデータとマーケット分析、問題解決に向けたデータの利用、講義の総括と今後の展開</p> <p>(9 石川ベンジャミン光一・13 笠島めぐみ/1回) (共同) 問題解決に向けたデータの利用</p> <p>(9 石川ベンジャミン光一・41 篠原信夫/2回) (共同) 病院情報システムと電子カルテ、診療情報と標準規格</p>	オムニバス方式、 共同 (一部)

専門科目	医療福祉分政策・管	医療福祉政策・管理学課題研究指導	医療福祉政策・管理にかかわる諸問題の中の特定の課題について、個別に研究の指導を行い、調査、情報収集、分析等を経て、研究報告書を作成する。それぞれの過程でグループ内での意見交換を行い、指導教員のもとで自らの発表や討論により主体的に学習を進める。	共同
	疫学・社会予防医学分野	疫学・生物統計学各論	<p>生物統計学は、生物現象の処理に数理統計学を応用し、その機構の解明に役立つための学問である。その基本的事項について体系的に学習する。主要な統計手法について、統計解析ソフトウェアを用いて実際にデータの解析を行う。また、疫学研究法を理解するとともに、自分が行う研究への応用と注意点ならびに疫学論文の批判的検討について学ぶ。</p> <p>以上より、疫学概論および生物統計学概論で獲得した体系的知識を具体的に活用し、科学的に検証する力を獲得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(① 山崎 力・② 飯室 聡/5回) (共同) 臨床試験デザイン演習1~5</p> <p>(① 山崎 力/1回) 尤度を中心に</p> <p>(12 桜井亮太/2回) イントロダクション、PubMedによる文献検索</p> <p>(23 横山和仁/7回) 疫学の意義と歴史、頻度の指標、図表の作成、疫学研究法(観察研究)、疫学研究法(介入研究)、総括</p>	オムニバス方式
		予防医学概論	<p>コンピテンシー基盤型教育を行うことで、予防医学に関する総合的な知識を習得するとともに、高度に専門化した我が国の健診(検診)医療についての職種横断的な知識を身につける。更に、各種の専門的な健診(検診)のあり方について深く考察することで、理論に裏打ちされた予防医学の実践能力を獲得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(2 青木大輔/2回) 癌検診と全国がん登録、婦人科検診・乳癌検診</p> <p>(① 山崎 力/7回) イントロダクション(歴史、基本概念)、循環器検診、脳ドック、フレイル、ロコモティブシンドロームとその予防、歯周病と口腔保健、健診(検診)に用いられる基本的検査、健診(検診)に必要なゲノム医療の知識(遺伝カウンセリング含む)</p> <p>(7 池田俊也/2回) 特定健診・特定保健指導、地域職域保健、健診(検診)の実施に関連する医療政策・医療法規、医療経済学</p> <p>(② 飯室 聡/2回) 1次~3次予防と臨床試験、健診(検診)データを解析する前に</p> <p>(15 津金昌一郎/1回) 生活習慣(喫煙、アルコール、食事・栄養、身体活動など)</p> <p>(32 中里道子/1回) 認知症・精神疾患へのアプローチ(メンタルヘルス健診含む)</p>	オムニバス方式
		疫学・社会予防医学課題研究指導	疫学・社会予防医学にかかわる諸問題の中の特定の課題について、個別に研究の指導を行い、調査、情報収集、分析等を経て、研究報告書を作成する。それぞれの過程でグループ内での意見交換を行い、指導教員のもとで自らの発表や討論により主体的に学習を進める。	共同